

北関東の山無し県 茨城のクライマー集団の会報

R&V 43. 44号

2001年10月～2002年3月



ACC-J茨城

目指せヒマラヤ!!

Rock AND VALLEY 2001秋 & 2002冬

No43 & No44



氷壁登攀中の吉田《PHOTO by Motozu》

雪、岩、沢に青春をかけた若人の記録
アルバイン・クライミング・クラブ・オブ・ジャパン・茨城

山での遭難死に思う

昨年夏に元会員のF氏がヨーロッパアルプスに登山中に遭難死した事は、まだ記憶に鮮明に残っている。F氏はアイガーに登頂して下山中に不慮の事故に遭遇したが、パートナーのT氏は実際には見えないF氏が事故直前に見えたと記述している。F氏のように積雪期登山経験の豊富なクライマーでも遭難死してしまう山は恐ろしいと思う。登山をしない人々は『好きな山で死んだのだから本望だろう』と言うが、そんな事は絶対にない。人間は好きな事・やりたい事があるうちは絶対に死にたくないものである。自分が掲げた目標は達成したいと思うのが普通だと思う。山で遭難死した人の大半（全員）は無念の思いで不慮の死を遂げたと推測する。前述のF氏の場合にも無念の思いから、死ぬ前にT氏の前に姿を見せたのではと想像する。だから山では絶対に死んではいけないし、遭難死は絶対に未然に防ぎたいと考える。2002年1月に北ア槍ヶ岳で冬季小屋に閉じ込められてヘリコプターで救出されたパーティーに話題が集中しているが、このパーティーは果たして遭難していたのか？【遭難】を広辞苑で確認してみると、【災難に遭遇する事】とある。前述の槍ヶ岳のパーティーは大量の降雪の為に冬季小屋に閉じ込められて行動不能に陥っていたので、まさに災難に遭遇していたと言えるし、ヘリコプターでの救出は遭難救助であったと断言出来る。しかし、さてよ我々は快楽を求めて山に登るのか？いや、その逆で困難を求めて山に登るのではないか!!快楽を求めるのであれば山など登らないほうが良い。困難を求めて・難儀な事を求めて山に登る者にとってどこから遭難と定義出来るのか？私見だが、登山の計画時に

想定した困難をはるかに超える困難な事態に遭遇した場合には遭難になると思う。その反面困難な事態はパーティーそれぞれの力量によって異なるし、同じ事象がパーティーの力量によっては遭難になるし、遭難ではなく単なる困難になる場合もあると思う。前述の槍ヶ岳で冬季小屋に閉じ込められたパーティーと同時期に槍ヶ岳北鎌尾根を登攀して槍ヶ岳冬季小屋で同宿し、片方は厳冬期北鎌尾根の完登の祝杯に酔いしれるパーティー、一方は遭難救助依頼を出して明日はヘリコプターでの救助を待っているパーティーと同じ山小屋に泊まっていても対照的なパーティーである。北鎌尾根を登攀したパーティーは中崎尾根をラッセルして自力下山したと聞いた。これなど同じ事象がパーティーの力量によって遭難になるかならないかの例と言える。トレーニング＆経験を重ねる事で登山者の力量はUPするし、同じ事象でも困難度は下がってくる。良い例がクライミングである。10aが登れないクライマーにとって11cに取り付く事は遭難のだが、トレーニングを重ねて11cが登れるようになると11aは困難でなくなる。冬山でもラッセルが当たり前の山行を実践しているパーティーにとっては、冬山でラッセルする事は困難なことではなく、また雪の状態把握等は朝飯前の事である。我々は日々研鑽を怠らず毎年訓練を重ねる事で山での遭難事故を少しは減少出来ると考える。更に万一を想定してセルフレスキュー技術の習得も我々の義務と思う。

（木村 記）

《目 次》

2001年 秋号 10月～12月 2002年 冬号 1月～3月 ACC-J 茨城

卷頭言	(木村) 1
目次 2
集会報告 3
山行報告 4
黒伏山南壁	(本図) 5～6
太刀岡山右岩稜	(渡辺) 7
御在所岳	(名雪) 8～10
古賀志山	(渡辺) 11
八海山	(笹平) 11
富士山雪上訓練	(菊地) 12
谷川岳ビーコン訓練	(石川) 13～14
会津蒲生岳	(吉田) 15
佐倉山	(吉田) 16
北ア横尾尾根	(笹平) 17～18
八ヶ岳赤岳南峰リッジ	(木村) 19～20
尾白川岩間ルンゼ&平田ルンゼ	(吉田) 21
春日ルンゼ&西上州三段の滝	(吉田) 21
黒部渓谷	(本図) 22～23
草津白根山	(渡辺) 24
藏王スキー縦走	(本図) 25
会津駒ヶ岳山スキー	(笹平) 26
因縁の山、会津三岩岳	(名雪) 27～28
佳老山	(本図) 29
巻機山山スキー	(渡辺) 30
友好山岳団体の月報・会報・その他	(本図) 31～35
編集後記	(木村) 36

表紙……太刀岡山 ハサミ岩登攀

集会報告

〔於 土浦 Gusto〕

.....[10月].....

10月3日

出席者 本団、木村、菊地、吉田、渡辺、笹平、大須賀

10月17日

出席者 本団、木村、渡辺、笹平、鯉河、大須賀

10月31日

出席者 本団、木村、菊地、渡辺、笹平、大須賀

.....[11月].....

11月14日

出席者 本団、木村、菊地、渡辺、笹平

11月28日

出席者 本団、木村、菊地、吉田、笹平

.....[12月].....

12月12日

出席者 本団、木村、菊地、吉田、渡辺、笹平、鯉河、石川

12月26日

出席者 本団、木村、菊地、吉田、渡辺、笹平、石川

.....[1月].....

1月 9日

出席者 本団、木村、菊地、吉田、渡辺、笹平、生井、石川

1月 23日

出席者 本団、木村、菊地、吉田、渡辺、笹平、中島、鯉河、石川

.....[2月].....

2月 6日

出席者 本団、木村、菊地、渡辺、笹平、吉田

2月20日

出席者 本団、木村、菊地、吉田、笹平、渡辺、石川

.....[3月].....

3月 6日

出席者 本団、木村、菊地、吉田、笹平

3月19日

出席者 本団、木村、菊地、吉田、笹平、渡辺

山行報告

《2001年10月～12月・2002年1月～3月》

.....[10月].....

- | | | |
|-------------|---------|---------------|
| 10月7日～10月8日 | 黒伏山南壁 | L本図、笹平、名雪 |
| 10月14日 | 太刀岡山右岩稜 | L本図、渡辺、松原、大須賀 |

.....[11月].....

- | | | |
|-------------|------|---------------------|
| 11月3日～11月4日 | 御在所岳 | L本図、木村、松原、名雪、吉田、大須賀 |
| 11月23日 | 古賀志山 | 渡辺、他3名 |
| 11月24日 | 八海山 | L笹平、渡辺 |

.....[12月].....

- | | | |
|--------|-------|--------------------------|
| 12月2日 | 富士山 | L本図、木村、菊地、笹平、渡辺、名雪、松原 |
| 12月16日 | 谷川岳 | L本図、木村、菊地、笹平、渡辺、名雪、松原、石川 |
| 12月23日 | 会津蒲生岳 | L本図、笹平、渡辺、名雪、吉田 |
| 12月23日 | 会津佐倉山 | L本図、笹平、渡辺、名雪、吉田 |

.....[1月].....

- | | | |
|-------------|--------------------|--------------------|
| 12月30日～1月3日 | 北阿横尾尾根 | L本図、笹平、渡辺 |
| 12月30日～1月1日 | 八ヶ岳赤岳南峰 | L名雪、木村、水島 |
| 1月13日～1月14日 | 尾白川岩間ルンゼ
平田ルンゼ | L本図、笹平、吉田、渡辺、名雪、松垣 |
| 1月26日～1月27日 | 安達太良山 | 笹平、石川、他茨城岳連講習会 |
| 1月27日 | 春日ルンゼ
霧積温泉周辺の氷壁 | L本図、吉田 |

.....[2月].....

- | | | |
|------------|---------|---------------|
| 2月3日 | 西上州三段の滝 | L本図、吉田、渡辺、名雪 |
| 2月8日～2月10日 | 黒部渓谷 | L本図、渡辺、高桑、他1名 |
| 2月24日 | 草津白根山 | L本図、渡辺、石川 |

.....[3月].....

- | | | |
|-------|---------|--------------------------------|
| 3月17日 | 会津駒ヶ岳 | L木村、笹平、渡辺、名雪 |
| 3月21日 | 蔵王スキー縦走 | L本図、渡辺 |
| 3月24日 | 会津三岩岳 | L木村、名雪 |
| 3月24日 | 佳老山 | L本図 |
| 3月31日 | 巻機山 | L本図、木村、渡辺、吉田、名雪、松原、吉田
松垣、金児 |

黒伏山南壁

2001.10.7~10.8

パーティー L 本図一統、 笹平孝、名雪博二 (ACC-J東京)

7日、晴れ。スキー場前からのアプローチ道を行く。当初予定していた今日の登攀ルートは仙台RCCルートだったが、トボによると工事用ボルトのハンガーがなければ登れないらしく、蒼山会ルートに変更する。取付に行くと、すでに先行パーティーがおり「蒼山会ルートはここでいいんですかね?」と聞かれてしまった。こっちから尋ねようとしていた矢先だったので、「俺たちも聞こうとしていたところなんだけど~」と、お互いにあてが外れた格好になった。既登したことのある四角ルートはあそこだから~、その左は通奏低音。蒼山会ルートはその左のはずだからこれかな?と、彼らの右側にあるルートらしきところに取り付く。

リードする笹平の口から出てくるのは、悪い、おつかねえの連発だ。4cm クラックや愛子ちゃんクラックがあるはずであるが。。。続いて私も登つてみると、それらしいクラックもなく、別ルートもしくは誰かが間違って登ったところであろうと結論。となりのパーティーに聞いてみるとクラックがあるという。懸垂で取付に戻り、彼らの後に続くことにした。彼らはたしか北海道の札幌労山と言っていた。しばらくたわいのない話をしながら待った後我々も取り付く。先行は"空の見えるクラック"の上から懸垂してきた。同ルート上で我々と交差したが、お互い協力してこれをクリアー。トボではA1となっているが、少し難しいフリーも入り面白い。時間もないし核心部は終わった

のでブッシュの手前から我々も懸垂した。下山しながらキノコを色々ゲット。思っていたよりキノコは少なかったが、今晚の酒の肴には十分であった。登山口には先の札幌労山があり、我々のキノコ袋を見て、昨日はナラタケが採れたものの、今日は無かったのだが何処で採ったのかと聞かれた。なるほど道理でキノコが無いはずだ。我々は道を外れて山の中を探し回ったのである。彼らは別パーティーを待って、これから観光をしながら明日帰ると言っていた。遠いところからご苦労様です。おそらく俺たちが縫道石山に行くのと同じ位の距離であろう。宿泊はスキー場より林道を先に行つた避難小屋を利用する。この小屋は古いが畳敷きで、カマドやテーブルもあり、水もすぐそばに滔々と流れしており快適である。カップラーメンまで置いてあるのには驚いた。

単独の先客がいて、カマドに薪をくべていたが、燃えが悪く人間の燻製ができるくらい煙い。縦走をしてきたそうだが、山の名前を聞いても私には不案内で分からなかった。キノコの油炒めは美味で、宴は盛大に且つ静かに行われていった。

近年は、どこの山に行っても避難小屋の快適さには感激する。昔は避難小屋=きたない、というイメージが私にはあった。事実、壁板や床板は引っ剥がされ燃やされてしまったり、汚物だらけで入るのもためらう

ことわざがあった。だから避難小屋を利用することは全く無く、近くにテントを張ったものだ。だが今は違う。避難小屋を積極的に使うようになった。これは地方自治体の努力と、登山者のモラル向上によるものなのであろう。

8日、曇り＆ガス風強し。昨日は数パーティいたが今日は我がパーティだけだ。三十路ルートに取り付く。やがて中央ルンゼをフリーで登るという男女ペアがやってきた。彼らは地元のクライマーでルートに詳しかった。笠平がオールリードで登る。中央ルンゼは二十年前に登ったことがあるが、忘れてしまったので新鮮味を感じる。後続は一番状態の良いビレ一点まで教えてくれた。少しの人工を交えて3ピッチ登る。3ピッチ目で後続の男性が墜落するが事なきを得たようで良かった。ホールドが欠けたと言っていた。中央ルンゼはここから緩傾斜帯を右に斜上するが、三十路はダイレクトに傾斜の強い所を登っていく。部分的に脆いところもあるものの、総じていいルートだと思えた。中央ルンゼの男女ペアは核心部辺りから降りていった。我々はそのまま9ピッチ程登り続け、残すは2ピッチとなった。このさきルートは強引に岩の部分をつないでいるよう感じ、ブッシュを登っても行けそうである。先刻からガスがかかり、風も強く寒くてたまらない。もう止めようということに意見が一致、降りることに

した。懸垂を繰り返して行くと、ヌンチャクがポツンとあった。？？？なんでこんなところに？？？よく見ると我々のヌンチャクではないか。回収し忘れらしい。俺たちも、時々こういう忘れ物をしているのかもしれない。取付まで降りると4～5人パーティがおり、今から登るの？と思ったらそのまま戻っていった。方言から地元のパーティのようだった。

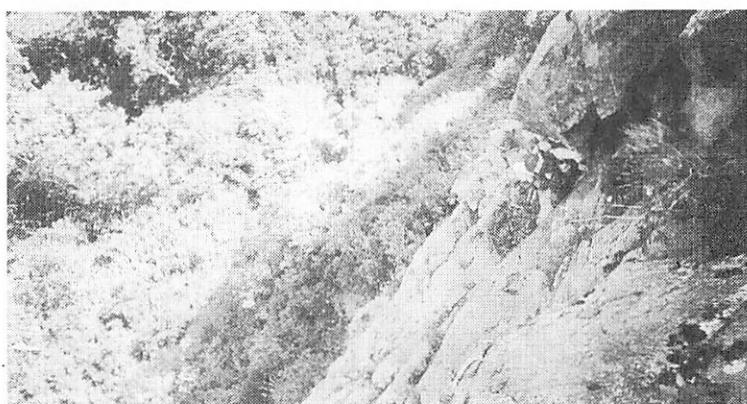
帰り道すがら昨日と同じようにキノコを探す。ナラタケが採れた。もうひとつ白いキノコがあったのでこれも採った。採取するときオシロイシメジと思ったのだが、笠が丸みをおびており茎も太い。さらに根元が異様に膨らんでおりオシロイシメジではない。自宅に帰ってから調べたがなんだか分からず、食べずに処分した。

[後日、太刀岡山でこれの群生を見つけた。その後、会津のキノコ直売所でこのキノコを発見、店主に尋ねたらホティシロイシメジという食菌のことだった。キノコ図鑑にも載ってなく、酷似菌（同じものか？）としてハイイロシメジがある。

これは時によって中毒も起こすことである。また一つ覚えた]

帰りの道中はたいした混雑もなく、スムーズに帰着した。

(本図 記)



太刀岡山右岩稜

2001.10.14

パーティー L 本図一統、渡辺聰子、大須賀伸男、松原丈夫 (ACC-J東京)

太刀岡山に通い続けたクライマーをもってしてもその存在を知らない超篤志家向けのルートでした。おそらくここ数年は誰も登っていないであろうというアプローチに始まり、うろうろしてやっと見つけた取り付きにはハーケンの上に落ち葉や土がたっぷりと付いておりました。「一番手渡辺いきまーす。」と1ピッチ目のA1を登りましたが、リングボルトがすべて土に埋もれていて登りにくいくことこの上ないといった感じです。トポに書いてあるテラスが見つからずに立木でビレイをしましたら、実はすぐそばに土の斜面と化していたテラスがありました。2ピッチ目、やはり土に埋もれたリングボルトをたどって登り、フリーになったところでちょっと足をかけた岩がグラッときたのであわてて手で押さえたら、その隣の岩が落ちてしまい、松原さんの腕を直撃てしまいました、あーごめんなさい。3ピッチ目はブッシュ沿いに左へ回り込んですっきりとした壁にでました。4ピッチ目はフェースです。ランナーがハーケン1本しかなく、フェースを苦手と

する私はとても緊張しました。ちょっとしたテラスがあったので区切ろうかと思ったのですが、もう少し上までのぞいてみようと色気をだしたのが間違いのもとでした。ルートから外れたかな?と思ひ(実はあっていましたが)やっぱりもどって区切ろうと下にあったリングボルトにヌンチャクを引っかけてA0でおりようとしたら、やってしまいました。ボルトが岩ごとはがれおち、幸いすぐ下のテラスに足から着地したものの膝をしたたかにぶつけてしました。かなり痛かったです。この後は一番手を本図さん一大須賀さんに変わってもらい、ブッシュ登りを2ピッチほどで終了点につきました。おそるべし右岩稜です。終了点では『蟹のはさみ』にそれぞれある人工ルートを練習し、抜けたリングボルトを使ってボルトの打ち込み方の実地訓練をし、下山しました。季節がらきのこがわんさかととれることを期待していましたが、これは期待はずれに終わりこの日の収穫はゼロでした。

(渡辺 記)



御在所岳遠路遠征岩登りトレーニング

2001.11.2~11.4

パーティー L 本団一統、木村 一、大須賀伸男、
名雪博二、松原丈夫、吉田信一 (ACC-J東京)

11月2日 総武線、中央線、の千駄ヶ谷駅に21:00集合なのでいつもよりうーんと早く会社を抜け出して、家へ戻って飯もろくに食う時間もなくさっさと家を出た。かなり早く千駄ヶ谷駅に着いた、駅前交番の裏にある公衆便所でダメ押しの排出を済ませ余裕のイップク、こういう時の煙草は特別旨い。やがて吉田信一到着、相変わらず集合場所に一番近い松原がいつものことだが遅くやって来る、しかも息子に車でここまで送ってもらってだ。

筑波を車で出発した茨城三人組がかなり遅れてくる、かなり渋滞したことだ、これから名古屋を超えて四日市の山奥まで一晩中走んなきやーなんねー、かなりの長丁場だ、この長丁場を乗り切るためオレもかなり緊張している、そのためか、待ち時間があんまりにも長かったためか家から持ってきたカンピールが一本あいちまった

で、やっと全員集合6人乗り合わせなので屋根の上に荷物を載せ、後席で4人が寝つ転がって乗れるようになった。

いつものようにオレに運転させろ！みんなのためにオレが犠牲になって運転をして行く！と心の中で叫んだが皆に聞き入れては貰えず、後ろの席に追いやられてしまった。仕方なくもう一本ビールを飲むうちにいつものよう 「アッ」という間に四日市についた、何度かサービスエリアに寄ったがまさに「アッ」と言う間である、イヤー早かつた、寝てたのかも知れない？

11月3日 四日市のインターを降りてすぐのコンビニから今度はオレが運転して山へ向かう、スムースな車の流れ、美しいハンドル捌きに、ここまで不安で寝られなかつた人も安心しきって眠ってしまう、one for allまさに皆の為自分一人を犠牲にして皆の為に頑張る、スポーツマンシップ、ラグビー精神、イギリスのジェントルマンスピリッツである。やがてオレの運転で、オレの運転で御在所岳登山口に着く、車が3台ぐらい置ける場所が在り兎に角到着、、、、。で少し寝る、でも運転席は寝ずらい、神経質なオレはこういう所で、こういう態勢ではとても睡眠出来ないのだ、高貴な育ち上がりが恨めしい、それにしても雑な育ちをしている人は羨ましい、こんな苦しい態勢でもいびきをかいて寝ているヤツが居る、人類としてあまり進化を遂げなかつた人種なのだろう。

オレはどうとう明るく成る朝を迎えるまで睡眠できなかつた。明るくなると同時に雨が降ってきた。雨もかなりしっかりと降っているので少し様子を見る事になり、また狭い運転席へ逆戻り、荷物を整えて出發しようとすると又雨が激しくなる、こんな事を何度も繰り返したがそのうち激しい降りが収まって、やつと傘を差しながら歩き出した。

オレは体が弱いので大きな荷物や重い荷物を背負う事は出来ない、その上雨の中、合羽を着て濡れなが

オレは体が弱いので大きな荷物や重い荷物を背負う事は出来ない、その上雨の中、雨合羽を着て、濡れながら歩くなんて事は出来ません、しかしあまり進化していない人種は重い、大きな荷を背負って雨の中を平気でガンガン歩くのです、虚弱体質のオレにはとても信じられない光景です。てな事を言つてるうちにウサギノ耳と言う今日のテント地に到着、何とか二張りのテントを張り、薪集め、フライシート張りを終えた。相変わらず雨がしとしとで、岩場の取り付きを見に行つたけどガスッて居て岩場が見えねー、もーこうなりやー酒飲むつきやねー、つーんでもっ昼間からやけ酒だー！ 昼飯前だよ！ はるーばる東京から連休つぶして来てるつづーのにこの天気は無しですよー。んで夕方までには相当でき上がつちまう、そこへ火に油を注ぐように、名古屋ACCの高橋氏ともう一人が、地元代表で本図先生に会いに来て、地元のうんめーもんをイーッパイと、酒をもって、宴会を盛り上げに来てくれた、んなもんでもーたーいへん。茨城名物木村薰製本舗のいつもの珍味も出て、飲めよ歌えよの御在所岳大宴会、山の上の盛大な宴会が麓の温泉街にまで響いて、湯の山温泉から芸者が10人以上もテント場に押し掛け、其れこそ酒池肉林の状態が一晩中つづいた、と、ゆーほどではなかつたものの、山にいることすら忘れて盛り上りました。前の晩からの寝不足でテントに入るとすぐ寝込んでしまったよ。

11月4日 朝早く目が覚めると、なんかまーだしとしとの感じの天氣で朝飯を豪華に済ませ、ゆっくりと出発、あっちも、こっちも、どっちもみいーんな登りでー、と思って居たけど

この塩梅では中尾根一本になっちまいそーな雰囲気、中尾根の取り付にはすでに2~3パーティ取り付いている、このあたりの大気ルートらしい。中尾根は快適に登れる部分と、じっくり登る部分が交互に現れる、全体的にはやさしい岩尾根だ、そのうち太陽も出て来てけっこう気持ちがいい。

何番目のピークか忘れっちまつたが、シャモニーの、パピオン岩稜に似たピークがあった。手前のピークの上に立ち、向かい側の壁にばつたんと取り付くんだが、ピークと壁の間が切れ落ちていて、その間の離れ方が微妙でゾツとする場所だ。ここも気持ち良く登れた。俺たちのすぐ前のパーティーに力一杯ビビッてるおばさんが居て、見ていると相当ヤバイ所を登つて居るように見えるんだが、実際取り付いてみると、なーーーんも難しい所も、ヤバイ所も無いんだよ、こういうのずいぶん昔から見てきたけど、何か懐かしい感じがしたねー。

中尾根はあっけなく終わり頂上を目指すことになった、ハイキング大通りに出たと たんゾロゾロ、ゾロゾロ人の列が続き何ともはや自分が場違いの人間になっちまう、このギャップはさっきのピークのギャップよりすごいぜ、瞬間にこうなっちまうんだぜ、だから御在所は頂上へは行かない方がいいでしょう！ 終了点から下降るべきだよ。でも何となく御在所の岩場の概念が掴めた感じがする、2回3回と行く場所ではない様な気がする、最もうんと近けりや何回行ってもいいけどねー。

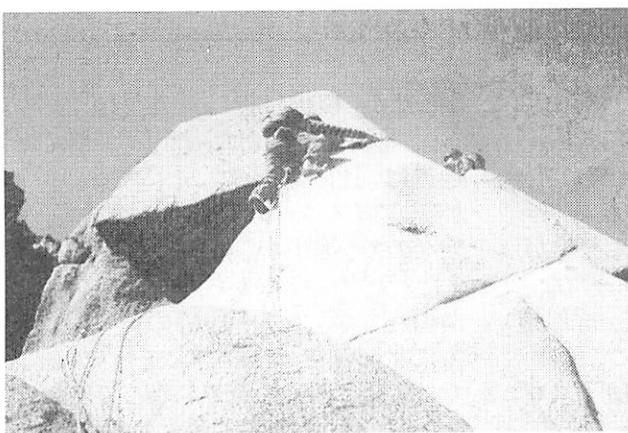
そんで帰りだよ イヤーひどい目にあったよ、湯の山温泉で風呂入つ

そんで帰りだよ イヤーひどい目に
あつたよ、湯の山温泉で風呂入って帰
ろうナーンて言って、車で行って見ると
どこもカネうーんと掛かりそう、だ
し、すーんごくどこも混んでいそう、
んで風呂やめて一気に還っちゃうべー
と思ったらとーんでもね一大渋滞、
どっちへ行つても大渋滞、どっかで何
かうんめーもんでも喰つて帰んべーと
思ったけど大渋滞でその余裕無し、イ
ヤイヤイヤ混んだねー、すんげー混み
よう、田ん中の畦道まで大渋滞、あき
れかえったよ。後で解ったんだが、名
古屋の熱田神宮と伊勢神宮を結んでや
る、大学だか社会人だかの全日本の有
名な駅伝大会があつたんだってよー、
其れがあの大渋滞の原因なんじやー
ねーの一。ダメだよそーゆ一日にあそ
この山行つては。みーんな時間切れ、

おかげで車内で東京の三人をどこで
ほっぽり出そうかの話し合いが密かに
されて茨城まで来ちめーつー話しも出
て、ヤバイよー、で、何とか
摔倒してやつと千駄ヶ谷駅まで來
て貰つたのはいーが、もう終電に近
い時間に成つていて何でもいいから
来た電車に飛び乗つてやつと国分寺
駅に着いた。

西武線はとっくに終了、酔っぱらい
の長い列にシラフで並んでタクシー
に乗り家に帰つてカーちゃんに説教
され1:00時過ぎにやつと寝るこ
とが出来たつー事だ。イヤー疲
れたねー、あんまり遠い所には行か
ない方がいいよ、日程に余裕が在れば
いいけどねー。でも結構楽しい山行
だったよ、またいくかーー！

(名雪 記)



御在所岳登攀中の本図

八海山登山中の笹平



古賀志山岩フリークライミング

2001.11.23

パーティー 渡辺聰子 他3名

クライミングジムの常連さん達から「古賀志に行こう」と誘われたので、夜7時までにつくばに戻ることを条件にOKした。駐車場には既に何台か車がとまっていたものの、マラ岩には誰もとりついておらず貸し切り状態であった。この貸し切り状態は最後までずっと続き、4人で好きなところを登り放題だった。私はこの日は結構調子が良かったらしく、ねらった獲物5

本をすべて一撃できたのでかなりの満足度であった（まあそんなに難しいところは狙わなかつたんだけど）。マラ岩は日当たりもよく、この季節にはとてもよい所である。わいわいやりながら結局ヘッドランプぎりぎりまで登り、急いでつくばに戻ってきて八海山へと向かった。（渡辺 記）

八海山

2001.11.24

パーティー L 笹平 孝、渡辺聰子

今回は、冬山訓練が出来そうな八海山に行くことにした。登山口の駐車場には雪が無かったので、山に雪が積もっているか心配していた。朝起きて山を見ると、稜線付近に雪が少し見える程度で、ほとんど雪が無い状態だった。アイゼン、プラブーツなどの装備は、車に置いて出発する。屏風道を1時間ほど登ると、清滝に着く。ここには小さな避難小屋があるが、壁が剥がれてボロボロだった。ここを過ぎると急登になる。岩稜の登りが続き、急斜面になると鎖が2本ぐらいづつ下がっている。しばらく進むとノゾキの松に着く。この辺は断崖絶壁になっていて、とても眺めが良かった。稜線が近くなると急登も終わり、雪が現れ始めた。稜線には、千本桧小屋があり40センチくらい積雪があった。駐車場からは判らな

かったが、稜線付近は意外に積雪があり、北面側は真白だった。ハッ峰の通過は、迂回路を行くことにする。しかし、アイスバーンが続いてとても危険なので、途中から稜線のルートに変えた。ラッセルしながら進むので、靴が濡れてくる。このハッ峰のルートは、主に北面側をトラバースして行くので、完全に冬山の世界になっていた。鎖を掘り起して慎重に進んで行く。途中、2ピッチロープを出してハッ峰を通過した。分岐点から新開道を下る。急な下りが続き、何度もスリップしながら雪の斜面を下りて行く。雪が無くなる頃には緩やかな下りになり、今日登って来たルートを眺めながら下りた。

（笹平 記）

富士山雪上訓練

2001.12.2

パーティー L 本図一統、木村 一、菊地光夫、笹平 孝、渡辺聰子、
名雪博二、松原丈夫 (ACC-J東京)

当会では毎年12月の第1週の日曜日は雪上訓練の時が多く、私が入会してからでも28年が経過しているが、それ以前から12月の最初に行われる会の行事でもあった。

昔に比べると富士山の雪が数段に少なくなってきた。ここ15年位前からその傾向が顕著であるように感じる。当時はスバルラインからのアプローチで5合目まで夜間に車で行けたが、夜間通行止めになってからは早朝に道路公団の車が安全を確認してからないと車を入れてくれず、途中3合目か4合目付近に雪があり除雪に手間がかかり、料金所のゲートを開けるのが10時頃の時もあった。また、4合目から先に車が入れず4合目から歩いて5合目まで行った時もあった。それだけ昔は多かったのかな。ここ数年は5合目の駐車場には殆ど雪が無い事が多い。またスバルラインの通行料金をケチって数年は滝沢林道を利用して5合目まで車で行っていたが、昨年頃から4合目の所にゲートが出来て通行止めになつたので、数年ぶりにスバルラインを利用する事になった。スバルライン入口の所でACC-J東京のメンバーと待ち合

わせをして、場所を移動してテントを張って恒例の宴会開始。翌日早朝にスバルラインを利用して5合目の駐車場に入るが、いつもの事ではあるが富士山は風が強い。登山道の途中で雪上訓練の出来る場所を探しながら歩き、なるべく急傾斜の場所を見つけて雪上訓練を行った。公認指導員の資格を持っている笹平指導員の講習を受けたが、彼はなかなかの理論派で筋が通った説明であった。午後の3時頃まで滑落停止・スタンディングアクスビレー等の練習をして雪上訓練を終了した。帰路は定番の吉野屋の牛丼屋へ直行。会員の中には毎週牛丼をばかりなので牛丼以外の食べ物ならなんでもいいよと言い出す者もある。でも東京の名雪氏は『280円の食い物を利用しない手はない。世はデフレの時代なので吉野屋とマクドナルドは大いに利用すべし』との事。金持ちはどうしても金を使いたがらないものか不思議だ。でも金を使わないから金が溜まるんだね名雪さん。

(菊地 記)

魔の谷川岳

2001.12.16

パーティー L 本団一統、木村 一、菊地光夫、笹平 孝、渡辺聰子、
石川泰士、名雪博二、松原丈夫 (ACC-J東京)

まずははじめに自己紹介をしたいと思
います。

石川泰士 名は「たいじ」と呼びます。
北海道北見市出身大阪に五年間と函館
に三年間住んでいました。

現在、筑波大学第一学群自然科学類物理
専攻三年次です。20歳です。

趣味は音楽、自転車ツーリング、スキー
等。まだ山に登り始めて一年にも満た
ないひよっこです。正直言って体の大
きさの割には力がないです。

そして物覚えが悪いです。けど頑張り
屋かも?知れません。

よろしくお願ひします。

* * * * * * * * * * * * * * *
谷川岳ビーコン訓練(前夜)

谷川岳ビーコン訓練は僕にとって
ACC-Jでの初めての山行になりました
と、いうことですべてが初めての体験
だらけで正直戸惑いが多かったです。
山岳会内に自分と同年代の人がいない
こと、山岳会内で初心者が僕だけ
であること(これはある意味ラッキーか
な?)、初めての冬山であること、い
ろいろと不安要因はありました。

僕は、山行前日に友達と谷川岳天神
平スキー場に遊びに行く予定があり
ましたから、わざわざ出発集合場所の
下館に戻るのも大儀でしたので僕だけ
現地集合ということになりました。
そして谷川岳登山センターで一泊し
てメンバー到着を待つことになったの
でした。

僕は臆病なのです。暗いところに
一人でいるなんてもっての外。中学
まで一人では寝られなかつたし、夜
トイレにも一人で行けなかつた気が
する(恥)。なんだか恥をさらすだけ
なので僕の情けない話はこれくらい
に(泣)こんなわけで、僕にとってこ
の訓練での一番の不安要因それは山
行そのものではなく、山行前日の孤
独な夜をどう過ごすかにあつたので
す。雪女が出たら食われるんじゃな
いか…、「あ~大の男が何を怖がつ
ているんだ…」とお思いになるかも
しません。けど、怖いものは怖いの
であります。

運悪く訓練前日の天候は吹雪。友
達とのスキーもまともに楽しめない
ほどの風。僕は愕然としました。まさ
かこんな天気の中僕はたった一人で
夜を過ごすのか…。しかも登山
センターなんてどうせ避難小屋みた
いなぼろい建物でお化けとか出そ
うだし…。僕はなるべく一人でいる時
間を少なくしようとスキーが終わつ
てからすぐ帰るはずの友達を引き止
め、水上の駅で一緒に晩御飯を食べ
ることにしました。と、その前に登山
センターのある場所を確認。大体の
場所を聞こうとロープウェイの案内
所にいきました。『あー、あそこね。
こないだ閉まったばっかだよ。閉所
式したんだえっ。お兄ちゃんあそこ
泊まるの。止めときよ。うちでいい
宿紹介するからさ…』

てんてんてん・・・。

とりあえず本図さんの電話番号にかけなければと、冷静な判断をした僕は鞄をまさぐりました。あれ？あれ？ないよー、電話番号簿がない！

おーい！！！気が遠くなりそうでした。初めての山行は登りもしないうちに敗退か…？どう連絡をつければいいんだろう。……真っ白……

本図接骨院、八郷町だったよな、と思い直しこれに全てを賭けるしかないと104をダイヤルしました。

「本図接骨院ですねしばらくお待ちください……………
でんわばんごうは0000-00-0000です」電話先の本図さんは至って冷静でした。「そんじゃね、土合の駅にいてください」駅寝だったら何度もした事あるし登山センターよりもいいのでは？とりあえずほっとしたので水上駅に友達とご飯を食べに行きました。

晩御飯はもの数十分で食べ終わり、いよいよ友達は帰っていました。
いよいよやってきた夜です。僕は水上駅から土合の駅へ向かいました。僕の不安な心は土合の駅に近付くほどに強くなっています。それは湯檜曽駅手前から電車がまったくトンネルの外に出ないからでした。

まさかなどと思いながら駅を出るとやはりそうでした。地下駅だったのです。階段ははるか上に続いています。出口が見えない・。

そんなこと聞いてないぞ一一一(x10)・。といくら現実逃避しようと
思ってもそこはたった一人だけの真っ暗闇。電車か風か、ゴーゴーと音をたて
僕をあざ笑っています。下手したらこっちのほうが登山センターより怖いかも
しれないと思いながら、ホーム内の待合室のベンチに寝転びました。

寝れません。こんなところで寝れる

わけないじゃないですかあ・・

本図さんずるいっすよおお(涙)おおお一幽霊が出そうだー

僕はこんな怖いところで一晩明かせるわけないと思い、意を決して階段を上り始めました。階段を一段上るたび背後から何か追ってきそうな気配を感じ、僕は走って上りました。

～さよなら、土合～国を追われる罪人のように一気に階段を上りました。そろそろ息も切れかけたころでした。遠くに人の声が聞こえるじゃないですか。なんだか黄泉の世界を走り抜けた後のようない不思議な感じでした。そこには僕とおんなじ格好をした人がビールやらつまみやらでちょうど盛り上がってたところでした。…もしかして俺は間違っていたのかなんだか慌しい一日でした。疲れてしまった僕は周りの人が楽しく宴で盛り上がる中、幽霊のことなどすっかり忘れ朝まで熟睡。

後日聞いた話では土合のホームは出るらしいです。あれが・。(*_*)

(石川 記)

会津蒲生岳

2001.12.23

パーティー L 本図一統、笹平 孝、渡辺聰子、吉田 仁、
名雪博二 (ACC-J東京)

蒲生岳は、会津の山奥滅多に人の訪れない、いや来るには来るけど、バンバン素通りしちゃうような、辺境の地にある、幻の山である。以前我々は、無謀にもこの山にアタックを試みた。しかし、降り頗る雪、行く手を阻む豪雪、現地人の強い反対に合い、敗退したのであった。今回我々は、前回の失敗を生かし、一年にも及ぶ作戦、準備期間を設け万全の体制で、二回目のアタックを試みた。今回は、隊員を2名増やし総勢5名の大パーティーだ!そしてタクティクスは、朝九時にベース出発、一騎にアタックをかけて、昼過ぎには下山し、後買い出しア～ンド鍋パーティーという、かなり苛酷な戦術を立てた。むろんアルパインスタイルである。

そして緊張の朝を向かえた。みんな、ちゃんとこスタイルで、コンロを炊き朝から鍋焼うどんをすすっている様子からもそれがうかがえる。中には、緊張のあまり咳き込み鼻から、うどんを出した者もいたほどだ。かくゆう私は、極度の緊張から飯も喉を通らず、小

便で雪の上に自分の名前を書いてしまう始末だ。そして出発の時間が来た。出だしから深いラッセルだ。ここは未開の地むろんトレースなどない。そしてラッセル!まだラッセル!ずうーとラッセル!うそ!マジでっ!てくらい来たときにやっとライブゾーンに到着。蒲生ステップは雪に埋もれているようだ。胸をつく雪壁に行く手を阻まれる。隊長が右にルートをとるが岩に遮られ×!S隊員が、直上のライン工作に成功。その後をみんなが追う。雪煙の舞う頂きは目の前だ。そして、三時間弱程で見事登頂に成功!今回は天候にもめぐまれ、現地人の邪魔も入らず、すべて順調に事が運んだ。しかし、あまり喜んでもいられない。危険な下山が待っているのだ。腹も空いたし急いで下山にかかる。三時間近くかけて登った所を、三十分ちょっとで駆け降りた。そして危険は、まだつづく。無人の蒲生駅にて、鍋の宴へと突入していくのであった。

(吉田 記)



会津蒲生岳
ラッセル中

会津佐倉山

2001.12.24

パーティー L 本図一統、笹平 孝、渡辺聰子、吉田 仁、
名雪博二 (ACC-J東京)

腰を壊して早二カ月、一切のクライミングから離れて平和な日々を送って来たけど、腰の回復もプラトー、平行移動の生活にも、いい加減飽きてきたので、急遽連休は、山に行こうって決めた。当初は、黄蓮谷の予定だったけど、この有様なので、とっくに中止。ならば、どつか八ヶ岳辺りでもって、隊長に連絡をいれると「もう、蒲生ってメール入れちゃったからなあ～。まあ検討して、また連絡すっから」っとのこと。隊長は、今期バイルとアイゼンを新調してるし、アイスに行かないわけないじやあ～ん!って、踏んでたけど結局予定どおりに、会津に行くそうな!まあものは考えようで、二カ月もプランクがあるし、ろくに歩きもしないたるんだ生活をしてきた私には、リハビリを兼

ねた、様子みの復帰第一戦には、ちょうどいいかも...。ところで佐倉山ってどこ?初日に登った蒲生岳から車で3~40分のところにその山はちゃんとありました。当たり前だけど。昨日と同様、車からいきなりラッセルだ!畑なのか?田圃なのか?今は、雪に覆われて分からぬけど、その横を山に向かってひたすらラッセル。樹林帯に入ても、もちろんラッセル!尾根に入ると様子が、変わってバリエーション臭くなってきた。途中木登りも出てくる。人工壁のガバルートみたいで、嫌いじゃない♪さほど腰の痛みを感じる事なく頂に到着。閑散としたクリスマスのスキーランドを眺めながら一服して下山にかかる。

(吉田 記)



佐倉山頂上にて
渡辺・笹平・吉田・名雪

北ア横尾尾根

2001.12.30~2002.1.2

パーティー L 本図一統、笹平 孝、渡辺聰子

去年、敗退した横尾尾根に行く事になった。入山初日から天気は雪で、釜トンネルを抜けると新雪がいくらか積っていた。徳沢から先がいつもしんどい。横尾に着くと今回は、小屋に泊まる事にする。

新雪が積って雪の状態が悪い為、2のガリーは諦めて末端から取り付つく。小屋にいた単独の人と一緒にになり、ラッセルを交代しながら登つて行く。しばらくすると、後続のパーティーが合流してかなり楽になった。P2まで来ると、去年の記憶があるので気分的に楽になった。P3のピークでは去年ルートを間違った所で、そのお陰か今回は迷わず進んで行ける。P4の登りは気を緩められない急登が続き、それを越えると去年のテン場に出た。さらに高度を稼いで進んで行くと、森林限界付近のP5に着く。ここには大学生パーティーがいて、我々も整地をしてテントを張った。単独の人もここで泊まるが、明日の様子を見て下山すると言っていた。明日から天気が悪くなりそうだ。

早朝、稜線までピストンの予定でヘッデンを着けて出発する。P6付近でわずかに初日の出が見えて、すぐ雲に隠れた。風が強いので時々止まりながら行く。なだらかな斜面が続くので、赤布を多めに使う。P7には別の大学生パーティーが出発の準備をしていた。横尾の歯には、P5

にいた大学生パーティーが取り付いていて少し待たされたが、フィックスがあるのでロープを出さずに通過して先に行かせてもらう。天狗のコルを過ぎる頃には吹雪になり、視界も悪くなってきた。P5にいた大学生パーティーは、時間切れと言って引き返して行ってた。後は、稜線までの登りになり先行の8人パーティーに追い着く。ラッセルにかなり苦労している様であった。少し急な雪壁では、ほとんど進まないのでかなり待たされた。その後も、思う様に進まず、タイムリミットまで残り30分しかない。今年も敗退なんて絶対したくないので、一声かけて先に行かせてもらう。視界が悪いので稜線は見えないが、高度計を見てもう近くだろうと思い一気に駆け上がった。稜線に抜けるとかなり風が強く、顔が痛い。みんなと握手をして、8人パーティーと別れ下り始める。トレースはどんどん埋まって、そのうち完全に無くなってしまい、今日登って来た所なのにルートファインディングが難しく感じた。途中、P7にた大学生パーティーはこの悪天候の中、登つて来ている。赤布に助けられP5に戻り、明日の下山のため赤布付けに出る。

朝起きると、かなりの積雪になっていて横尾まで下れるか少し不安になった。登ってきた時

とは、だいぶ景色が変わっていて、ルートを外すと胸まで埋つてしまい苦労する。数ヶ所、ロープを出して難所を抜けると少しあは気が楽になった。しかし、先はまだ長く相変わらずラッセルに苦労させられる。P1付近で単独の人と出会い、その後はトレースが出来ているので横尾まで駆け下りた。

次の日の天気は大荒れで、去年の天気と同じ様だった。小屋からラッセルになり、雪崩た所の通過はほとんど進まずもがいてた。そのうち、徳沢の方から数人来たので助かった。徳沢でビールを一気飲みして上

高地へ下りた。

- 12/30 坂巻温泉 (8:30) — 横尾
(14:40)
12/31 横尾 (7:10) — P5
(14:40)
1/1 P5 (6:00) — 稜線
(10:40) — P5 (15:00)
1/2 P5 (7:20) — 横尾
(14:30)
1/3 横尾 — 坂巻温泉

(笹平 記)



風雪の横尾尾根を腰までのラッセルで登山中

八ヶ岳南峰リッジ

2001.12.30～2002.1.1

パーティー L 木村 一、名雪博二、水島 幸男 (ACC-J東京)

まかり間違えれば八ヶ岳の小屋主になっていたかも知れない水島御大と、年末年始は家に居たくない名雪隊長と、毎年八ヶ岳に来ないと一年が終わらないような観念に囚われてしまった木村のトリオで今年も赤岳南峰リッジに壮絶な登攀をする為に美濃戸口に車を走らせた。1月2日には集落の新年会が朝からあるので、1月1日には必ず下山の宿命を背負っての山行である。朝目が覚めると雪が降っているではないか。おまけに風が強く、吹雪いている感じさえする。今日の登攀は諦めて赤岳鉱泉までの行程と決定。そうと決まれば先を急ぐ必要は無く、怠堕を貪り朝寝を決め込む。車の中でウダウダしている内に雪が小降りになってきたので、身支度をして赤岳鉱泉に向けて歩を進めた。寒気が入っているので気温は氷点下になっているだろう。赤岳鉱泉に着く頃には恐らくマイナス15℃まで気温が下がり、テント設営中も手がかじかんでしまう位の寒気だ。急いでテントを設営して中に入り宴会開始。水島さん持参のシャブシャブと、木村燻製本舗特製の虹鱒の燻製と、名雪食品衛生監視員推薦のマグロの刺身とツマミハ豊富だ。小用の為テントの外に出ると、空には星が瞬き明日の登攀は期待できそうである。

12/31 今日は毎年恒例になっている赤岳南峰リッジに向かう事にしたが、赤岳南峰リッジを登るパーティーは少ないので出発は朝の7時と冬の登攀にしては遅めの出発。途中の行者小屋から眺める赤岳西面は昨日の吹雪の影響

で雪がビッシリと付いて荘厳な感じを受ける。文三郎道の登りは相変わらずで好きになれない。左に見える地蔵尾根は一度も登った事がないがもっとキツイ登りと思う。毎年なんだかんだと愚痴を言いながらやつとの思いで南峰リッジの取付に到着して登攀準備。今回の登攀パーティーは合計で175歳と高年齢の無謀登攀隊。名雪登攀隊長が張切ってザイル2本を引張って登攀開始。南峰リッジは特に問題も無く文三郎道の上部に飛び出した。名雪隊長の言葉を借りると『南峰リッジは両手両足が使えるので文三郎道を登るより楽チン』との事。赤岳頂上小屋に入り登頂記念をビールで乾杯。至極の時がゆっくりと流れて行くのを感じるが、いつもでもここに居る訳にもいかないので意を決して下山開始。赤岳頂上からの下降は今年は雪が少ないので楽チン楽チン。地蔵尾根の急傾斜を駆けるようにして下り一目散にテント入り、無事帰還の乾杯。夜はこれも毎年恒例の赤岳鉱泉小屋でのビンゴ大会と樽酒の飲み放題。名雪隊長はここ八ヶ岳ではウンが付いているのか、今年はアイゼン+ワイン+αと商品を独り占めにしてご満悦。ビンゴ大会後は茨城の紫峰山の会の宿泊している部屋に入り込み、豪華な食料を頂きながら大宴会モード。水島さんはテントに帰るのは嫌だと駄々をこねて、今夜はここに泊まるとの事、本当の所は木村&名雪と一緒に寝るより女性と一緒に泊まりたいのが本

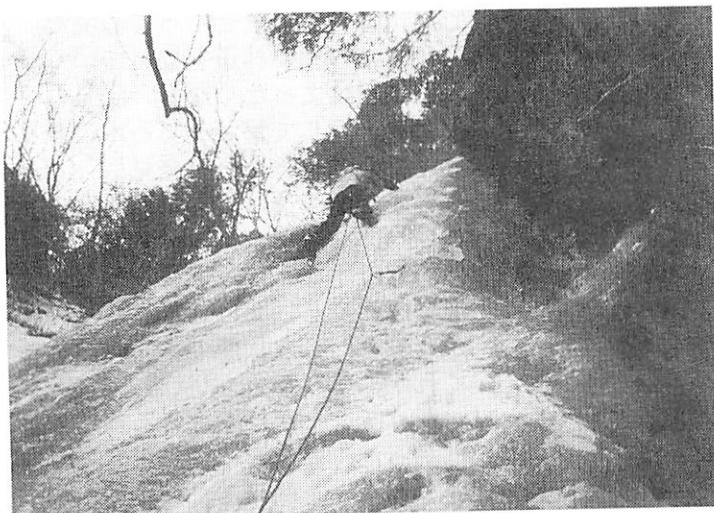
心らしい。明日は天気が良ければ石尊稜の登攀、もし天気が悪い時には紫峰山の会に付き合って硫黄岳に行く事にして就寝。

1/1 今日の天気は曇りで更に天候悪化の兆しがあるので木村・名雪が紫峰山の会に同行して硫黄岳に行く事にした。水島さんはテントで停滞を決め込むとの事。赤岩の頭付近から天候が急変、それまで穏やかだったが風が強くなり始め、硫黄岳の頂上は烈風が吹

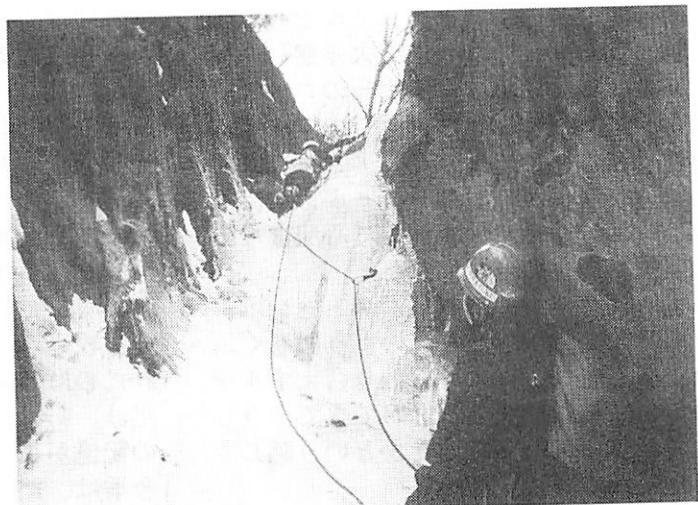
き抜けていたので、紫峰山の会の数名は登頂を諦めて頂上直下までとなってしまった。硫黄岳からの下降は一気に下降して鉱泉でテントを撤収して一目散に美濃戸口へ駆け下った。

途中の祠に名雪神主の音頭で参拝して2002年の安全登山を祈願したが、祝詞がインチキ臭かったのでご利益は期待できないかも知れません。

(木村 記)



岩間ルンゼの登攀



平田ルンゼの登攀

今年のアイスまとめてポン

結論から言ってしまえば、今シーズンは会報に載せるほどのクライミングをしていない、というか出来なかったというか。寒波は、12月の中旬に来たつきりで、後は鳴かず飛ばず。所謂、暖冬ってやつでしょうか!?近場のグレンデは、ほぼ壊滅状態!行く先々で、がっかりの連續。そんなんでも谷川辺りは、よく発達したみたいだし荒川出会いも、例年になく太ったらしいし、よく分からぬシーズンでもあつた。結局、谷川の計画も流れちゃったし、アイゼンを新調したのに悲しいかぎりで…

ガンマルンゼ、ベータルンゼ

2002.1.13~1.14

パーティー L本図、名雪、笹平、
渡辺、吉田、松垣、
(ラリグラス)

今シーズン初のアイスと言うことで、気合いが入るが、氷結状態は今一つ。初日のガンマルンゼで、登れたのは最後の滝だけ。アイゼンの具合を見るのに、片方づつモノとデュアルで登るが、なんせナメなもんで大差無し。最初の一蹴りで、パートナーのロープを、蹴り抜くおまけ付きで、ブルーに入る。夜は神社に下りて、アンコウ鍋で気分一新、翌日はベータルンゼに入る。朝の冷え込みが弱くて心配になるが、出会いの滝は○だった。

3級位か?次のチョックストーンは、檄薄なので、当たり前のように巻く。先が心配だったけど、取り合えずルートの最後まで登ることができて辛うじて、気持ちは満たしたかという感じだった。

春日渓谷

2002.1.27

パーティー L本図、吉田

天気予報によると、山は大荒れらしい。一週開けてしまったので、だめもとで蓼科方面へと出発した。だめだった!やっぱり…しかも大雪で現場にも到着できず。意気傷心していてもしかたないので、霧積温泉に転戦!もう、凍ってれば、それだけで文句はございませんって心境だ。温泉までの狭い林道を登っていくが氷の気配はまったくなし。温泉の手前で、辛うじて繋がってる氷に張り付いてるパーティーを発見!ごくろうさまです。透けて岩が丸見えですね!そして温泉到着。記憶では近くにあるはずなんだけど分からぬ。温泉のおやじに聞いてみると、火燐から顔をだした状態のままで教えてくれた。ありがとう!状態としてはかなりチンケだけど登れるだけの氷はあった。贅沢言ってる場合ではない。バイルを刺せるだけでも、めつけもんだ。せいぜい7~8mの滝を何度も何度も登った。ああ一暖冬…

西上州三段の滝

2002.2.3

L本図、名雪、渡辺、じん

二日深夜、西上州三段の滝付近に到着。暖かい、またか…。翌朝冷え込みゆるし。案の上、滝は穴だらけで、登れる状態じゃない。いつまで眺めていても凍る分けでもないでの、牧場エリアに移動する。結局登れたのは、5m程度の氷結のあまい滝だけ。あまりの落胆ゆえ、それ以外の記憶がございません。

今季は、たった三回の山行でシーズンを終えてしまった。結局満足のいく登りは出来ず終い。氷不作の年でした。

(吉田 記)

黒部冬季歩道

2002.2.8~2.10

パーティ L高桑信一（浦和浪漫山岳会）、岩城史枝（岳人編集部）、
渡辺聰子、本図一統

この山行は高桑氏の取材に同行したもので、昨年から準備を重ねてきた。しかし、アメリカの同時テロの影響で（本当は別の理由だと思うが）、大町トンネルが冬季閉鎖となり、宇奈月側もどうなっているのか心配があった。ACM上で情報を求めたところ、某大学山岳部の方から「今年になってから通った」との情報をもらった。

出発前日になって、カミさんの実家の母親の様態が悪くなり、行くか行かざるべきか非常に迷う。今までこういう状態が一年以上続いているので、もし亡くなったら携帯に連絡くれることとし、行くことに決心する。

下妻で渡辺と合流し、高桑氏の自宅を回り、さらにJR久喜駅で岩城さんを拾う。別にこれといった障害もなく順調に宇奈月に着いた。

9日。雪が舞っている。地元のパーティがおり、近くの山に登ると言っていた。ここから軌道上を歩くのだが、どこから入っていいのか分からず、駅のホームの方に回り込む。帰りに分かつたことだが簡単に入れる場所はあったのだが。

橋の部分は熱線が入っており積雪はない。トンネルの部分は軌道上を歩く。地上の部分は表に出る手前から冬季専用歩道が掘られている。この専用歩道は幅約1m、高さ2m弱といったトンネルが延々と続いている。少しずつコンクリートで補強拡大したトンネルに改良されているようだが、素堀りのトンネルの方が昔を偲べて趣がある。明かり窓が所々にあるが、照明も歩行に

差し支えない程度についている。軌道トンネルが長い所には「ノロッコ君」という小型電気トロッコが設けられていて、これがなんとも可愛らしく乗りたくてしょうがない衝動に駆られる。が、やはり無断で乗るには気がとがめた。

表に出ることがほとんどないので寒さは感じない。下着、シャツの上に雨具を着るだけで十分である。ときどき作業員たちと会うが、彼らの歩くスピードはかなり速い。こいつら何をしに来たんだという顔をする奴もいるが、大方は話しかけると気軽に応じてくれた。作業所によっては、行き3時間歩行、作業1時間、帰り歩行3時間ということもあるだろう。いや、もっと遠ければ泊まりでの勤務のはずだ。それ用の宿舎が所どころある。私のように一日中自宅の中にいる者にとっては、こんな黒部の大自然の中で仕事ができるなんて羨ましくも思う。

延々と約9時間かけて樺平まで歩く。樺平は無雪期と様子がまったく違い、ホームから表に出ることはできない。天幕は駅から少し先の平坦地に張った。積雪は2~3mといったところか。おそらく線路の上であろう。

食当は岩城さんがやってくれ、おいしいものをたらふくいただく。今日は風もなく、夜は静かにふけていった。

10日。早朝、回りを散歩（というほどのものではないが）をする。たて

坑まで行こうとするも、入り口がシートで塞がれており行けなかった。私は今まで扇沢宇奈月間を、大町トンネル～黒部トンネル～インクライン～上部軌道～たて坑～黒部峡谷鉄道と乗り継いだことが2回ある。上部軌道などはいったい何十年前に作られたのか、すごい難工事であつただろう。犠牲者が数多く出た。これらは吉村昭著書「高熱隧道」に詳しい。

あとは昨日の道を戻るだけである。高桑、岩城両氏は写真撮影など取材に忙しい。私と渡辺はときどきモデルになるだけで暇である。

私と渡辺が先行し、お二人を待っていたときである。そこはスノーシェードというのか知らないが、線路の上が屋根になっていて、その上を雪崩が通過するようになっている場所がある。ドドドーっとすごい音がした。私はすぐに雪崩だとわかつたが、なんとその雪崩は我々の頭上を通過していったのである。雪崩は一気に黒部川の水面まで落ちていった。雪崩を裏側からみた経験はなかつたし、おそらくこれからもないであろう。いい経験をさせてもらった。

専用歩道の中で作業員のおじさん二人に抜かれた。渡辺が「本図さん、あれあれ、ノロッコ君」と言った。よ～しダ

メモトだ、とばかりおじさんに話してみた。「あの～、ノロッコ君なんだけど、一度乗ってみたいんだけど～ダメですか」「あ～、今日は休日だから他にだれもいないからいいよ、でも歩いた方が速いよ」「うわ～嬉しい～、ありがとうございます～」

「これ一台、いくらくらいすると思う」「う～ん、ぜんぜん見当つかないなあ」「これ一台1000万するんだよ」と教えてくれた。さらに、親切に取り扱い方法も教えてくれた。実に可愛らしい二人乗りで、荷物も積め、もしこんなものが遊園地にあつたら子供達は大喜びするにちがいない。実際乗ってみると、想像していたよりかなり速く、歩くスピードではなかった。でも作業員たちは乗ることはないようで、みなさん歩いていた。

帰りも9時間くらいで宇奈月に着いた。まず気掛かりな群馬に電話をいれる。なんと帰ってきた返事は、昨日亡くなつたので明日葬式だという。楽しみにしていた今晚の宿での宴会も出来ず、ひと風呂浴びて一足先に帰ることにした。特急と新幹線を乗り継いで高崎には午後9時には着いた。

みなさんには最後にとんだ忙しい思いをさせてしまった。申し訳なかったです。



ノロッコ君に乗って
ご満悦の渡辺

草津白根山

2002. 2. 24

パーティー L 本図一統、渡辺聰子、石川泰士

風邪のウイルスがようやく体から抜けていってくれたが、まだ本調子ではないので楽ちん登山の草津白根となつた。ゲートの手前で夜を明かし、ロープウェイ乗り場まで行ってみるとおにーちゃんが駐車料金を受け取ったあとに「今日は風が強いのでロープウェイの運転を見合わせています。今のところ運行予定はありません。」と言つてきた。お金を払ってしまった親分は丁寧に「もしロープウェイがだめだったら下の駐車場にはこのチケットで止められますか?」と聞くが「料金別になつています。」との返事にちょっとむつときたようだった。さらに「じゃあ今払ったお金は払い戻しできるんですよね。」と続けての質問に「払い戻しはできません。」と答えが返ってきて、かなりむつとしたようだった。初めての山スキーが中止になりかけていた石川さんは

がっかりした顔をしており、私は本図さんがおにーちゃんと喧嘩をはじめるのではとかなりどきどきしていた。駐車場でまつことしばし、ロープウェイが動き出すとのアナウンスに車を飛び出した。上は強風が吹いており、目出帽をかぶって歩き出す。傾斜はかなり緩やかで、山スキーというよりはスノートレッキングといったところだった。滑るところは頂上からわずかな距離だけだったが雪質は最高でかなりいい感じに滑ることができたような気がした。本白根の頂上を踏み、駐車場まで戻ってきたが時間はたっぷり残っていたので、帰ろうとしている人達から1日券を安く譲ってもらいゲレンデでスキーを堪能した後、さらに名湯草津の湯を堪能して戻ってきた。

(渡辺 記)



草津白根山頂でポーズ 本図・石川

蔵王スキー縦走

2002.3.21

パーティー L 本団一統、渡辺聰子

実は10日ほど前(3月10日)に二人で来たのだが、天気悪く地蔵山から引き返した。今日はリベンジということになる。前回と同じように妨平スキー場(今はエコーライザスキー場といったかな?)に車回収用のモンキーをデポし、蔵王スキー場の駐車場で仮眠とした。

21日。朝一番のロープウェイに乗り込む。10日は強風とガスで何も見えなかつたが、今日は風はあるものの快晴の素晴らしい天気である。頂上駅で計画書提出をする。駅員から下山したら電話をお願いしたい旨の連絡を受ける。準備を済ませ出発。

地蔵山までひと登りし、熊野岳に向かう。前回は地蔵山往復するのに地図と磁石がはなせなかつたのに、今日はなにもいらない。経験にはならないけど、山はこうでなくっちゃ楽しくないよね。単独行のおじさんと会う。ここには何回も来ているそうで、実に若々しく、はつらつとしていた。俺もあのように歳をとりたいものである。いやまたよ!もしかすると俺とあまりかわらない年齢かもしれない。おじさんは熊野岳巻道ルート、我々は直登ルートを行く。熊野岳は頂上が広く視界がないと祠は見つけにくいだろう。登り下りが小さいので、滑降するときもシールをつけたままである。すると、なんとスノーモービルがやってきたのである。うへん興ざめだなあと思っていると、それはスキー場のパトロールの方で、天気の良いときにツアーコースの整備をしているのだった。同じスキー・パトロールとしてご苦労様を感じた。

左側には御釜が見える。今年は草津白根山といい、おかまについているらしい。でも俺は本物には興味がないのでそちらはごめんだぜ。それに車のそれも遠慮しておく。

刈田岳に行くと宮城蔵王やエコーライザから登ってきたパーティがいた。記念写真を撮りあう。いよいよ大滑降の始まりだ。と思いきや、決して大滑降なんかではなかった。緩斜面をぶん流し、スキー場いでたらグレンデを滑って終わってしまった。そのころには雲が出て来て、天気予報通り下り坂のようだった。

モンキーで車を回収してきて気が付いた。ポケットに入れておいた3~4千円がない。そうかあ、さきほどモンキーの鍵を出そうとして一緒に札も落としてしまったのだ。風が強かつたので無いとは思ったが、探すと一枚だけは見つかった。つい先日、苗場スキー場では8千円ほどなくし、今日またこれかと思ったら、自分のだらし無さにすっかり落ち込んでしまった。

10日と同じようにフキノトウを探り、これまた同じように茨城まで一般道で帰った。車で走行中携帯電話がなった。出てみると、なんと蔵王スキー場頂上駅からであった。そうです、下山報告を忘れていたのです。丁寧にお詫びを申し上げた。ここまで確認して下さるとは、登山者にとって心強くありがたく思った。登山そのものは、蔵王は我々にとって、ちょっと物足りなさを感じたのが正直の感想である。(本団記)

会津駒ヶ岳山スキー

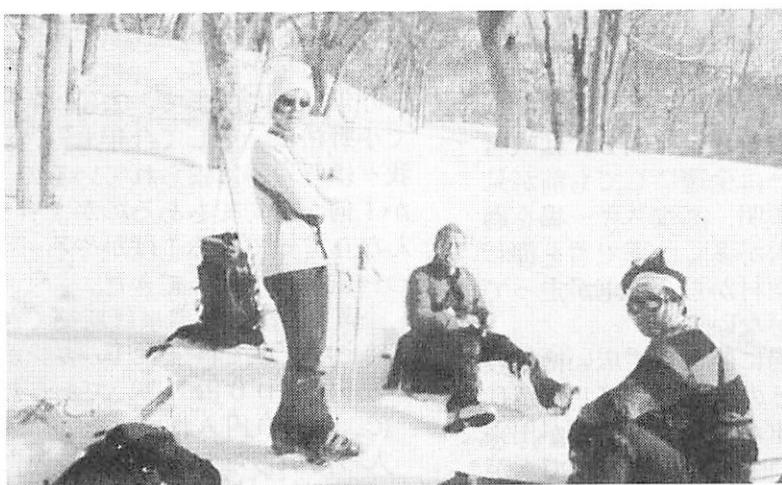
2002.3.17

パーティー L 木村 一、渡辺聰子、笹平 孝、
名雪 博二 (ACC-J 東京)

滝沢橋を渡ると雪が現れ、堅く締まっていて歩きやすい。すぐに急登が始まり、慎重に登る。それから谷沿いを登り、アンテナの所を通過して行った。尾根に出ると景色が良く見えて、疲れを癒してくれる。しだいにシール登高で来る人たちに抜かされ始め、悩んだが結局そのままつぼ足で行く事にする。ピークが近くになると尾根も緩やかになり、駒ノ小屋の所に着く。頂上直下の大斜面では、ボーダーやスキーヤー達が早くも滑りを楽しんでいる。最後の急登を登り終えると、駒ヶ岳山頂に出る。非常に展望が良く何枚か写真を撮った。ここからスキーを履いて、大戸沢岳へ向かう。なだらかな下りとなだらかな登りになる。今回は、大戸沢岳から南に延びる尾根を滑り降りる。雪質はいい感じで、尾根沿

いに小回りにターンを繰り返し気持ちよく滑り降りる。樹林帯になる頃には、重い雪になり、極端に滑り難くなつた。何度も転びそうになりながら樹林帯を下りて行くと、やせた尾根に出る。この辺になると木の間隔も密になり、雪が少なくなつてくる。このまま尾根は進めないので、沢に向かって下り始めた。木村さん以外はスキーを履いて、急斜面をトラバースしながら高度を下げていく。トラバースをしていると、崩れた雪がどんどん雪ダルマになって、でかい雪ダルマが木村さんにぶつかりそうになりやばかった。沢を渡ると沢沿いの道を出て、滝沢橋まで滑り降りることが出来た。

(笹平 記)



会津駒ヶ岳登山中の 渡辺・名雪・笹平

因縁の山恨み重なる、会津三ッ岩岳

2002.3.24

パーティー L 木村 一、名雪博二 (ACC-J東京)

思い起こせば去年の三月23日（金）の夜、木村家に集まり塩原温泉経由で山王峠のトンネルを越えて田島信号の1^{キロ}手前右側のコンビニで、運転を交代し高杖スキー場を過ぎたあたりから強烈な吹雪となり目的地の小豆温泉の駐車場についた頃は道路上の積雪が20cmを越え、駐車場内で車を一回りさせた時、車の轍を越えて、車全体の幅で雪が削られていたっけなー。ナーンて思いながら去年と同じ3月23日（土）の夜木村家出発塩原温泉を過ぎて、例のコンビニまで来ると、また雪がちらちら降り出した。

ちょっと話は余談になるが、このコンビニは世界の煙草を集めて売って居る、山の中のコンビニなのに売れるのかなーと思う、国内の煙草も昔懐かしい、しんせい、いこい、両切りのピース、ぴー缶等もうとっくに製造していないと、思ってた物まで取りそろえると言う熱の入れようであり、煙草を吸う人は是非一度寄って見ることをお勧めする。

車が田島の交差点（信号有り、上を会津田島線が走っている）を過ぎ、会津高原駅を過ぎるあたりでは完全に道が白くなりかなりの降雪だ。伊南村に入ると401号線に出ると去年と全く同じ、猛吹雪となる、ワイパーは全速にしても前が見えない、路肩が不明、高畠スキー場を過ぎるとさらに積雪が多く、車で雪を押し分ける感じ、伊南村から全く車が走っていない、車の轍がない！

小豆温泉の駐車場に停まらず広い檜枝岐の駐車場にやっとのことで到着したが長靴を履かないと車から降りることが出来ない、長靴を履いてもぎりぎりまで雪が積もっている、全く去年と同じである。

去年は早々にこの周辺に見切りを付け会津小野岳に転身した。少々寝てから去年の経験を生かして今回は帝釈山の田代山を目指し、湯ノ花温泉へと向かった、水引の集落を過ぎると田代山の峠へ向かう林道となりすぐに除雪して無い終点となり、付近の偵察をしている内に急激に晴れ渡り、空は今までの吹雪が嘘のような真っ青、イ一天気、コノ天気ではもったいないので、また小豆温泉に戻って一昨年の同じ時間に同じルートを辿って三岩岳に向かう。登り口で計ると約40cmの積雪だ、そしてリミットの12:30時、一昨年より50メートル先の1425, 7メートルのなだらかなピークを越えた所、一昨年より50メートルも先まで行って力つきた！

下りは猛烈な最中雪で殆どスキーハは回らない、仕方なくスキーを背負って下る、スキーを履くよりずっと早かった。

一昨年は同じ所まで、去年は大雪で小野岳に、そして今年も”。我々は三岩岳に崇められているのか！何か文句でもあるのか！有るんなら言って見ろ！ばかやろー！つ一氣持ちで還ってきた。

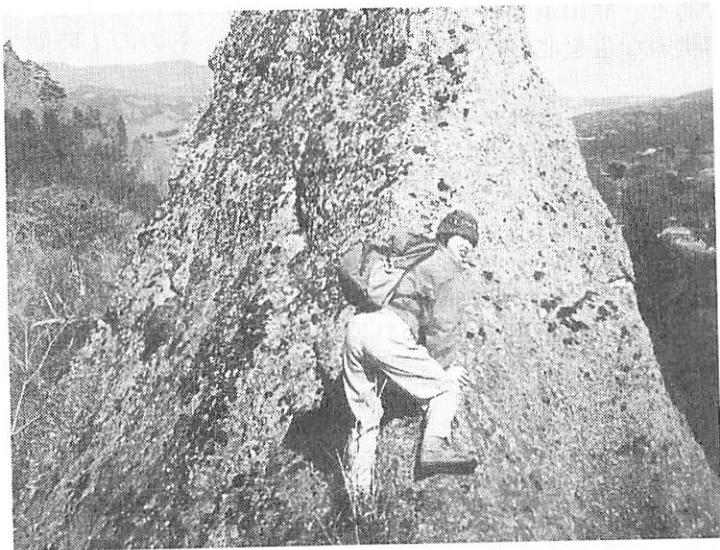
帰りの湯ノ花温泉は新築できれいなフロアで料金入れのカンがあって200円で書いてあったので、100円入れてきた、二人で入ったからちょうど200円になる！

オレはおこった！こうなりや一意地でも登ってやるぞ、来年も、その又来年も、10年でも、20年でも三岩岳のほうで、参りました、も一勘弁して下さいと言ってくるまでスキーで登り倒してやる一つ。わかったかーっ！終わり。

(名雪 記)



窓明山をバックにポーズ 木村



佳老山の核心部を登るいつもの〇〇さん

佳老山北岩稜(仮称)

2002.3.24

パーティー L 本図一統、いつものおばさん

佳老山と聞いても、どこにある山か知らない人がほとんどではないだろうか。大子町の北東、茨城福島県境から僅かに福島県に入った所にある、標高459mのこの山になぜ私が行ったかというと、北側にナイフエッジを持った岩稜が存在すると山岳雑誌で読んだからである。紹介記事を見ながら現地に向かうが迷う。地元の人にガイドブックをみせても、佳老山なんて知らないと言う。それでも迷いつつ、やっとたどり着くことができた。ほぼ頂上まで車で登ってしまうのである。頂上には新築された立派なお宮があり、参拝者が多いのかも知れない。

今日の登山はいつもとちょっと違う。車で頂上に行き、下ってから目的のルートを登るのである。登山道といふにはあまりにもお粗末な道を北側に下って行く。

10分も下ると取付と思われる岩峰が右上に見えてきた。だれが何と言おうと、今日の登山はバリエーションルートからの登攀なのだ。バカにして、ルートファインディングを的確にしないと命取りになりかねない。

俺はまだ佳老山で死ぬ訳にはいかないのだ。最初の岩峰にして核心部であるピークは見事なナイフエッジで、とても歩いては通過できない。馬乗りで通過し岩峰のピークに立つ。左側(東側)は垂直に40mは切れ落ちている。右側は垂直ではないが落ちると基部まで転落するのでタダではすまないのは確実。

ピーク直下に松の木が一本生えてい

るが、それ以外支点となるような物はない。岩質は男体山と同じ凝灰岩で、スタンスがいつボロっと欠けてもおかしくない状態。ピークから松の木まで2mくらいだが降りるには勇気がいる。ザイルは携行しているが、パートナーのおばさんの技術では、支点がしっかりと取れなくては危険が大きすぎる。この岩峰の通過を諦め、クライムダウンして基部に戻る。右側(西側)を巻くが少々悪く感じた。微かな踏み跡があるので登る人はいるようである。同行のおばさんは黄色い花を見つけて『マンサク』だという。俺も信用してしまった(後日わかったことだがこれは間違いであった)。後は馬乗りになりたい所が一ヵ所あつただけで、頂上にたどり着いた。ものの1時間半くらいの行動であった。

頂上のお宮には、参拝者ノートなるものがおいてあり、なんと今日の日付で、八郷町の参拝者の名前(聞き覚えのある)が記されてあった。私たちが北尾根を登っている間に来たようだ。神社巡りの愛好家には知られている神社なのかもしれない。

まだ午前中である。どこか温泉でも寄り道して帰るとするか。

(本図 記)

巻機山山スキー

2002.3.31

パーティー L 本団一統、木村 一、渡辺聰子、吉田 仁、
名雪博二、松原丈夫、吉田信一 (ACC-J 東京)
松垣、金児 (ラリグラス)

巻機山に来るのは二度目である。今回は前回たどったコースとは逆に井戸尾根をつめて米子沢を滑降する。巻機山が山スキーに人気のあるところだとは聞いていたが、かなり広い登山口の駐車場が私たちが着いたときすでに満車だったのはちょっとびっくりだった。6時前に出発し井戸尾根を登る。前回はここを積もった落ち葉をしゃかしゃか踏みながらどこかにキノコはないだろうかと探しながら下り、やたらと長い尾根だったという印象だったが、今回登ってみると思ったほど長くてつらい登りということも無く、途中なんどか休憩をはさみながらニセ巻機までやってきた。ここまでくるとさすがに風も強く、おまけにガスっていて頂上付近は全く見えなかった。協議の結果頂上まで行かずに滑降することにする。つぼ足とちょっと遅れていた吉田さんと別れ滑りだす。最初の數十

メートルだけは雪質も最高で私的には会心の滑りだった。大ナメのところはまさに一枚バーンになっていて、なかなか楽しかった。米子沢をつめたときの様子などすっかり忘れていたと思っていたのだが以外と覚えており、沢登りをしたときはここはどうだったこうだったと懐かしく思い出しながら滑り下りた。右岸からナメ沢が合流するあたりからものすごいデブリが出始めて苦労したがんとか車のところまでつなぐことができ、満足の一日だった。名雪さん御用達のお風呂に入り、さっぱりして帰路についた。

今回は総勢9人、こんなに大勢での山行はいつ以来だろうか？楽しかった。特に女性が私一人では無かったのでなおさら楽しかった。だれかクラブにはいらないかなー。

(渡辺 記)



巻機山米子沢 滑降開始直前

《 友好山岳団体の月報、会報、その他》 ありがとうございました

月報

- ◎ Rohman NO.196 2001.11 B5 54P 浦和浪漫山岳会
過去10年間の山行一覧、在籍者一覧
- ◎ Rohman NO.197 2001.11 B5 63P 浦和浪漫山岳会
30周年記念特集・虎毛山塊を6パーティで遡行、南会津・湯ノ岐川渡沢、
早池峰山、下田・仙見川中俣~権ノ上山~静川、焼石・夏油川~ウシロ沢
~牛形山ほか
- ◎ Rohman NO.198 2001.12 B5 18P 浦和浪漫山岳会
早池峰山、越後・黒又川ツナガ沢北の沢右俣~大倉山~出合沢右俣~出合沢~明神山
~大禿沢右岸尾根、日光・三右衛門沢ヤジノ沢出合~タマムコ沢~西ノ湖
~千手ヶ原~千手ヶ浜ほか
- ◎ わらじ NO.547 2001.10 B5 26P わらじの仲間
ヨセミテフリークライミング、秋の集中・三国川銅倉沢沖窪沢、
飯豊・長走川事故報告ほか
- ◎ わらじ NO.548 2001.11 B5 16P わらじの仲間
小川山事故報告、秋の集中・奈良沢川三ツ石沢~下津川山、奥利根・小穂口沢北沢
南沢、川内・常浪川内南 大谷沢~矢沢川ヨモギ沢~銅倉山~大谷沢、越後・
三国川黒又川日向沢、オツルミズ沢ほか
- ◎ わらじ NO.549 2001.12 B5 14P わらじの仲間
秋の集中・小沢本流ほか
- ◎ 逍遙 NO.125 2001.10 B5 18P 逍遙溪稜会
平ガ岳・只見川大白沢シロウ沢大ハゲ沢、ワカゴイ沢、谷川・西ゼン、
足尾・坪川三重泉沢~三林班沢ほか
- ◎ 逍遙 NO.126 2001.11 B5 23P 逍遙溪稜会
南八甲田・黄瀬川、滻の俣川田堰沢、谷川・七ツ小屋裏沢、帝釈・西根川本谷、
谷川・湯桧曾川東黒沢ほか
- ◎ 逍遙 NO.127 2001.12 B5 18P 逍遙溪稜会
上越・高倉沢、奥秩父・入川股の沢、丹沢・谷太郎川鳥待屋沢、越後・越後沢山~
丹後山、裏丹沢・神ノ川エビラ沢ほか
- ◎ Next! NO.70 2001.10 B5 8P 山岳溪流釣り集団むげん
ルアーフィッシング、45年の歳月、岩魚釣りに纏わる話ほか
- ◎ Next! NO.71 2001.11 B5 12P 山岳溪流釣り集団むげん
初めての入院、安達太良山ほか
- ◎ Next! NO.72 2001.12 B5 12P 山岳溪流釣り集団むげん
黒又川左岸の空白ほか
- ◎ とまのかぜ NO.107 2001.10 B5 77P 童人トマの風
御坂・芦川濁沢、北ア・金木戸川小倉谷、越後・黒又川五竜沢、虎毛・
皆瀬川大鳥谷沢、奥秩父・大洞川手戸沢、大常木谷~竜喰谷、小常木谷、越後・
登川金山沢、頸城・鍋倉谷、戸隠・裾花川キレット沢~本流~宝丹沢、

谷川・オジカ沢、会越・広谷川ム沢丹沢・中川川マスキ嵐沢、焼石・屎前沢、南会津・黒谷川大幽沢西ノ沢～ 大幽東ノ沢、弁慶・中野俣川猪ノ鼻沢中俣、佐渡・戸地川右沢、白神・追良瀬川、丹沢・大岩沢、谷川、湯檜曽川本谷、桧又谷二の沢、南会津・仕入れ沢～大鳥沢～コウノキ沢、奥秩父・

猪鼻沢ほか

◎とまのかぜ NO.108 2001.11 B5 58P 童人トマの風

南会津・ミチギノ沢～御神楽沢、奥利根・利根川剣ヶ倉沢、水長沢、虎毛・ 皆瀬川、御神楽・前ガ岳南壁、谷川・湯檜曽川大倉沢、佐久御座山・南相木川～平沢、会越・真奈川笠ノ沢～赤崩沢、蒲生川持場沢、水上沢～大白沢、塩沢川立安沢～小白沢、塩沢川本流～蒲生川本流、蒲生川滝下沢～井戸の沢、谷川・湯檜曽川東黒沢～白毛門沢、谷川・幽ノ沢中央壁正面フェース、V字右、奥秩父・東沢東のナメ沢、船形・内唐府沢右俣～左俣、栗子・摺上川滑谷沢杭甲沢～三本松沢左俣ほか

◎とまのかぜ NO.109 2001.12 B5 24P 童人トマの風

会越・八十里越、妙義・並木沢、西上州・タカノス岩北尾根、城が崎・フナムシロック、関都～天狗角取山～母成峠、勢至堂峠～三森峠、名栗川又・小泉エリア蛇岩ほか

◎山紫水明 NO.76 2001.12 B5 9P 山旅の会

丹沢・大岩沢、春川本谷、常念岳～蝶ヶ岳、SIEBENGEbirge 縦走ほか

◎すずらん通信 NO.246 2001.10 B5 17P 鈴蘭山の会

利根川本流、ナルミズ沢、奥秩父・大常木谷、丹沢・キウハ沢、谷川・大ベタテ沢右俣、黒部・赤木沢、飯豊・飯豊川蟹沢、御神楽・御神楽沢、奥利根・越後沢中俣ほか

◎すずらん通信 NO.247 2001.11 B5 24P 鈴蘭山の会

谷川・笹穴沢、越後・北ノ又川滝ハナ沢、湯檜曽川本谷、南会津・黒谷川～下梯子沢～小手沢、谷川・西ゼン、谷川本流～赤谷川、中ア・念丈岳～桧尾岳、下津川本谷、奥秩父・大黒茂谷、谷川・檜又谷滝沢、南ア・野呂川 シレイ沢、安達太良山集中・石筵川、杉田川、湯川ほか

◎すずらん通信 NO.248 2001.12 B5 4P 鈴蘭山の会

山行計画ほか

◎渓游 NO.117 2001.10 B5 10P 游渓会

四国・剣山境谷、大峰・上多吉川阿古滝谷、台形高・本沢川本谷・黒倉谷、鈴鹿・神崎川赤坂谷、中国ツアーや北海道・クワウンナイ川～トムラウシ山・コタキ川～知床岳、奥越・打波川桧谷ほか

会報

◎ADVENTURE forum NO.7 2001.11 A4 8P 植村記念財団

あなたはなぜ冒険をするのか?石川直樹紹介、八ヶ岳、釧路ケ岳ハイキングほか

◎年報とまのかぜ NO.8 2001.11 B5 278P 童人トマの風

無雪期の山は朝日飯豊連峰8本。会越谷川18本。北海道東北20本。アルプス関東18本。雪の山は会越谷川10本。北海道東北5本。アルプス頸城12本。関東以西16本。夏は沢登りは殆ど。冬はアイスクライミングと山スキー

- の記録である。2000年山行一覧ほか
- ◎さわわらし 其の5 2001.5 B5 161P 遊谷俱楽部「さわわらし」
 1.特集 泳げ 沢童士として9本。泳ぎ主体の沢の記録。2.ミニ特集・白山手取川水系瀬波川流域8本。3.白山の谷・11本。4.その他の山域・13本。5.大滝登攀4本。2000年山行一覧ほか
- ◎遡行 年報3号 2001.10 B5 ?P 山岳溪流同人「酒と鍋」
 沢登りを中心とした山行が37本掲載されている。岩登りからアイスクライミング、雪稜、海外遠征などオールラウンドに活動している。2000~2001年山行一覧ほか
- ◎ALPINE 年報01 2001.11 B5 164P 名古屋ACC
 エリア研究・木曾御嶽周辺の谷18本。定例山行18本。遡行の記録39本。積雪期の山14本。海外山行はヨーロッパアルプスとアンデスの2本。2000年山行一覧ほか
- ◎酔虎伝 20周年特別号 2001.11 B5 182P 運行同人「梁山泊」
 1997年の記録21本。1998年の記録12本。1999年の記録14本。2000年の記録14本。思いでの山行6本。1998年~2000年の山行記録一覧ほか
- ◎年報わらじ NO.24 2001.12 B5 227P わらじの仲間
 2000年冬山合宿・朝日連峰4本。夏合宿・飯豊連峰5本。春の集中・奥秩父5本。秋の集中・百字ヶ岳6本。冬の集中・八海山6本。北海道東北の記録16本。会越・南会津・那須18本。越後12本。上信越21本。東京近郊9本。北ア・頸城18本。八ヶ岳・中央ア5本。海外は台湾、ヨーロッパ、ヨセミテなど5本。2000年山行一覧ほか
- ◎すずらん NO.22 2001.11 B5 133P 鈴蘭山の会
 山スキーの記録15本。沢登り15本。その他の記録や随筆8本。夏は沢、冬は山スキーのクラブである。2000年山行一覧ほか

《友好山岳団体の月報、会報、その他》 ありがとうございました

月報

- ◎Rohman NO.199 2002.1 B5 30P 浦和浪漫山岳会
 卷機山、下ノ権現堂山、田代山、大嵐山、家老岳、前白岩山ほか
- ◎Rohman NO.200 2002.2 B5 18P 浦和浪漫山岳会
 冬の集中・帝釈明神ヶ岳・2パーティに分かれての山行、谷川西黒救助訓練ほか
- ◎Rohman NO.201 2002.3 B5 22P 浦和浪漫山岳会
 高山~千手ヶ浜~小田代ヶ原、武能岳西尾根、安達太良山山スキーほか
- ◎Rohman NO.202 2002.4 B5 20P 浦和浪漫山岳会
 室谷~船窪山~ヤジロ尾根、洞窟温泉~早坂尾根~浅草岳、三ツ又~伊五郎岩尾根~大倉山、末丈ガ岳ほか
- ◎Rohman NO.203 2002.5 B5 36P 浦和浪漫山岳会
 春合宿・小穂口の頭にベースを設け奥利根周辺を登る、飯豊・蒜場山ピストン、

- 越後・高倉山、奥利根・柄 沢川~越後越路~奈良沢~ゴトウジ沢~ブサノ裏沢
~井戸尾根ほか
- ◎わらじ NO. 550 2002. 1 B5 26P わらじの仲間
丸山中央山稜ほか ◎わらじ NO. 551 2002. 2 B5 20P わらじの仲間
八木沢ダム~利根川横断~三国ダム、越後 3 ツ石尾根右稜、金城山~巻機山、
戸隠・九頭竜山弘法直登ルンゼ ~九頭竜山、茂倉岳北西尾根ほか
- ◎わらじ NO. 552 2002. 3 B5 20P わらじの仲間
奥利根巣冬期縦走、妙義山ほか
- ◎わらじ NO. 553 2002. 4 B5 28P わらじの仲間
戸隠西壁 P5 稜、会越・吉三坂山~貉ヶ森山~雲河曾根山~蒲生、窓明山~坪入山~
稻子山~ブナ沢山、姥沢川中 間尾根ほか
- ◎わらじ NO. 554 2002. 5 B5 14P わらじの仲間
扇沢~岩小屋沢岳~白龍峡~黒部別山~八ツ峰~劍岳~馬場島ほか
- ◎わらじ NO. 555 2002. 6 B5 18P わらじの仲間
室堂~五色ヶ原~薬師岳~槍ヶ岳~新穂高温泉、越後丹後山~中ノ岳ほか
- ◎逍遙 NO. 128 2002. 1 B5 12P 逍遙溪稜会
富士山、会津駒ヶ岳、会津・山王峠ほか
- ◎逍遙 NO. 129 2002. 2 B5 8 逍遙溪稜会
後生掛温泉山スキー、奥多摩・鶴川大群沢ほか
- ◎逍遙 NO. 130 2002. 3 B5 12P 逍遙溪稜会
双子池~麦草峠、峰谷川長久保沢、タカマタギ山ほか
- ◎逍遙 NO. 131 2002. 4 B5 12P 逍遙溪稜会
丹沢・水無川、南会津・長須ガ玉山~大丈田代、丹沢・寄沢ほか
- ◎Next ! NO. 73 2002. 1 B5 10P 山岳溪流釣り集団むげん
会員の近況報告やエッセイほか
- ◎Next ! NO. 75 2002. 2 B5 12P 山岳溪流釣り集団むげん
会員の近況報告やエッセイほか
- ◎Next ! NO. 76 2002. 3 B5 10P 山岳溪流釣り集団むげん
会員の近況報告やエッセイほか
- ◎Next ! NO. 77 2002. 4 B5 18P 山岳溪流釣り集団むげん
奥秩父集中・入川赤沢谷、滝川ほか
- ◎Next ! NO. 78 2002. 6 B5 22P 山岳溪流釣り集団むげん
奥秩父・入川股ノ沢ほか
- ◎とまのかぜ NO. 110 2002. 1 B5 32P 童人トマの風
湯河原・幕岩、塔ノ岳、勘七の沢、伊豆・小土肥大川、奥多摩・天王岩、箕輪山、
八ツ・広河原沢、硫黄岳ほか
- ◎とまのかぜ NO. 111 2002. 2 B5 46P 童人トマの風
タイ・プラナン、八ツ・広河原沢、南ア・舞姫ノ滝、荒沢岳、守屋山、光岳~茶臼
岳、双児沢、塩見岳、北信・鍋 倉山、日光白根山、西上州アイス、神楽峰山ス
キー、尾白川アイス、北八ツ・天狗岳ほか
- ◎とまのかぜ NO. 112 2002. 3 B5 52P 童人トマの風
笊籬~栗子山~米沢スキー場、板谷峠~1202 峰、栗子山~杭甲山、尾瀬沼、台湾・

- 沙里仙溪~三光渓、佐久・兜岩、
赤岳、勘七ノ沢、神楽峰中尾根、足拍子岳、西上州・御場山、霞沢岳西尾根、大
無間山、荒船山3ルンゼ、西上州・3段の滝、旭岳東稜ほか
- ◎とまのかぜ N0.113 2002.4 B5 36P 童人トマの風
勘七の沢左俣、頸城・空沢山、タカマタギ、戸隠・八方睨、鍋倉山、谷川・万太郎
山、阿能川岳、平標山ヤカイ 沢スキー、裏八幡平スキー、佐渡・金北山、南会
津・大戸岳、小野岳、三岩岳、会津駒ヶ岳ほか
- ◎とまのかぜ N0.114 2002.5 B5 37P 童人トマの風
会山行・浅草岳、守門山、阿能川岳、赤岳天狗尾根、北八つ・天狗岳、頸城・鉢山、
火打山、焼石・キツツ川沢 山スキー、雨飾山、白馬乗鞍岳、妙高・三田原山、
八つ・阿弥陀岳北稜ほか
- ◎すずらん通信 N0.249 2002.1 B5 4P 鈴蘭山の会
代表挨拶ほか
- ◎すずらん通信 N0.250 2002.2 B5 12P 鈴蘭山の会
黒姫山、北ア・十石峠、猫魔が岳、船形山ほか
- ◎すずらん通信 N0.251 2002.3 B5 14P 鈴蘭山の会
上州武尊雪上訓練、頸城・乙妻山、尾瀬山スキーほか
- ◎すずらん通信 N0.252 2002.4 B5 8P 鈴蘭山の会
北八ヶ岳、南会津・窓明山、西吾妻山、会津・大戸岳ほか
- ◎すずらん通信 N0.253 2002.5 B5 16P 鈴蘭山の会
月山~肘折温泉、神楽峰、会津・キリンテ、谷川・ヒツゴウ一沢、信越・佐渡山~
乙妻山、越後駒ヶ岳、北ア・不帰沢ほか
- ◎すずらん通信 N0.254 2002.6 B5 12P 鈴蘭山の会
巻機山、立山、梅池~朝日岳ほか
- ◎渓游 N0.118 2002.4 A4 10P 游会
氷ノ山・八木川布滝谷、鈴鹿・神崎川佐目子谷、四国・赤星山皇子渓谷、
丹波・篠見四十八滝、穗高屏風東稜、大峰・大普賢岳ほか
-
- 会報
- ◎ADVENTURE forum N0.8 2002.3 A4 8P 植村記念財団
冒険家の紹介ほか
- ◎茨城岳連 N0.21 2002.4 B5 12P 茨城県山岳連盟
会長挨拶ほか
- ◎岳人 N0.7 2002.3 B5 32P まつど岳人俱楽部
谷川・天神尾根、北岳池山尾根、八ヶ岳・裏同心ルンゼ、石尊稜、阿弥陀岳北稜、
赤岳主稜、湯川ほか
- ◎吉田幸雄 追悼集 2002.5 B5 66P 徒登行山岳会
沢登りでは有名な吉田幸雄氏が吾妻連峰塩ノ川で遭難した。その追悼集。

以上閲覧したい方は本図まで

編集後記

今回は42号と43号の合併号の発行になった。会員数が少ないので原稿が少ないので合併号の発行になった大きな理由だが寂しい感がする。東京ACC-Jの名雪氏にも毎号原稿を依頼していますが、今後はACC-J東京の会員にも、もっと会報原稿の依頼をしたいと思っていますので宜しくお願ひします。

今年の冬は暖冬でしたが山には残雪が多く残っています。雪が解けた所では山菜が沢山採れるので、個人的には残雪期の山が一番好きです。山菜の中でもコシアブラを油で炒めたものと暖かいご飯で作る混ぜご飯が美味しいくて、毎年コシアブラを沢山採って作って食べています。

ウドの炭火焼きも捨て難い味です。特に沢の中で焚火で焼くウドは最高の味がします。この頃は山に行ってお土産を持って帰るのが楽しみになってきました。

(木村 記)



季報〔R & V〕第43号&44号

発行者：本団一統

発行所：ACC-J茨城 305-0861 茨城県つくば市谷田部2268

木村 一 方

編集者：木村 一

印刷所：やまと印刷



岩壁、沢、冬山のクライミング集団